

「JAなんすん」の土壤医検定への取組み

土壤医検定試験を毎年多く受験している 式でインタビューしました。
「JAなんすん」（静岡県）の職員にQ & A形

JAなんすんの現状

*所在地：静岡県沼津市（戸田地区・井田地区を除く）、裾野市、長泉町、清水町

*地区別主要作物：駿河湾と富士山を望む絶景と温暖な気候に恵まれた環境で、お茶やミカンをはじめ、イチゴ、柿、ヤマトイモ、プチヴェール、近年では富士山の裾野で遊休農地を利用したソバの栽培など、多品目の農畜産物を特産とする。

*JAの方針と営農部の対応：

JAなんすんは農家組合員のため、当JAの土壤・農薬分析センターで土壤分析を実施し、「収量と品質アップ、コスト削減による農家所得向上」と「持続可能な環境に配慮した施肥」を目標に、TAC（営農指導員）が土壤分析報告・施肥提案を行っている。この度、TAC一人一人の提案力底上げのために団体で土壤医検定試験に取り組んだ。

プロフィール

氏名：青木 一統

肩書：係長 TAC（営農指導員） 土壤医
検定2級合格（2018年度）

所属：南駿農業協同組合 中部営農経済セ
ンター

好きな野菜：トマト・プチヴェール・玉ねぎ



Q1：現在の業務内容を教えてください。

A1：玉ねぎ部会とトマト部会を中心に営農指導を行っています。他には、後輩指導員育成や耕種部会の指導も行っています。

Q2：土壤医検定を受験しようと思った動機を教えてください。

A2：JAなんすんのTAC一丸となって土壤にもっと詳しくなり、生産者の要望に沿ったより良い施肥提案を行いたいと思ったからです。

Q3：試験勉強をしてみた感想をおしえてください。

A 3：当JAには土壌分析センターがある為、化学性診断においては重要度を比較的理解しているつもりではありました。しかし、改めて土壌について勉強し化学性・物理性・生物性診断のいずれも重要である事を再確認出来た事で、色々な観点から診断出来るスキルを向上する事が出来ました。

土壌と根本的に向き合う知識を習得する為には、最適な試験勉強内容であったと思います。

Q 4：仕事上で役立ったことについて教えてください。

A 4：トマト・玉ねぎ・水稲において化学性

土壌分析を行っております。肥培管理において、土壌医試験の参考書を参照して肥培設計を立てています。

水稲では食味値一定基準以上を出荷基準として設けたブランド米の施肥設計において、収量との兼ね合いや、地力窒素との肥効バランスを考える為に、基本となる土壌医検定の試験にて得た知識を踏まえて設計、指導に当たっています。

トマトにおいてもしっかりと土壌分析を行うことで、連棟ハウス内の生育のばらつきを抑制する事が出来、安定した収量を収穫可能な圃場コンディションをキープ出来ています。

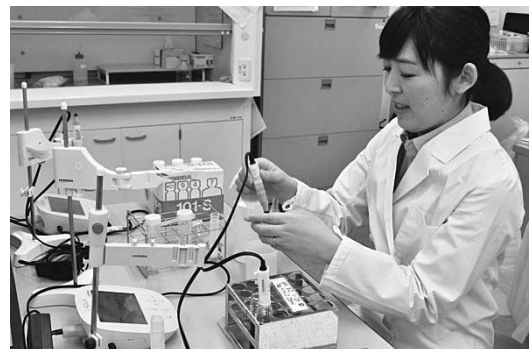
プロフィール

氏名：日吉 沙奈子

肩書：係員 土壌医検定 2 級合格 (2017 年度)

所属：南駿農業協同組合 営農部 農地保全課 土壌・農薬分析センター

好きな野菜：トマト、イチゴ



Q 1：現在の業務内容を教えてください。

A 1：当JAの土壌・農薬分析センターで、土壌分析や産直市の残留農薬検査を行っています。

土壌分析後に報告書を作成し、TAC（営農指導員）につないでいます。

Q 2：土壌医検定を受験しようと思った動機を教えてください。

A 2：土壌分析の結果を施肥や品質の向上に活かせるよう、TAC（営農指導員）、生産者へ提案したいと思い受験しました。

Q 3：試験勉強をしてみた感想をおしえてください。

A 3：土壌の化学性だけではなく物理性や生

物性、作物ごとの特性を知ることができ、幅広い観点から土壌について考えることができるようになりました

Q 4：仕事上で役立ったことについて教えてください。

A 4：学んだ知識を活かして土壌分析の結果報告に役立てています。TAC（営農指導員）と土壌知識を共有したり、土壌分析の重要性をPRできるようになりました。

Q 5：今後の目標を教えてください。

A 5：一人でも多くの生産者に土壌分析を実施してもらい、よりよい土づくり、作物づくりに貢献していきたいです。